



# 大沢田

— おおぞうた —

take  
free



## 就任のごあいさつ ..... P02

診療部長に就任して / 整形外科部長に就任して  
泌尿器科部長に就任して

医療の話題 No.131 | 脳卒中の血压管理を中心とした  
発症予防について ..... P04

特集 | 新型コロナ感染症対策の  
2年間の軌跡 ..... P06

## INFORMATION ..... P12

- 東京病院臨時医療施設への医師派遣について
- 新型コロナウイルス感染症の看護師派遣について
- 新型コロナウイルス感染症宿泊療養施設への派遣を終えて

NST委員会からのお知らせ ..... P16

新研修医あいさつ ..... P17

研修医紹介 ..... P22

認定看護師ってこんな人 ..... P23



独立行政法人 国立病院機構

## 東広島医療センター

〒739-0041 広島県東広島市西条町寺家513番地

tel.082-423-2176 fax.082-422-4675

[発行責任者] 事務部長 野村 哲朗

[制作] 株式会社 D52

東広島医療センター 検索

<https://higashihiroshima.hosp.go.jp/>



## 診療部長に就任して

診療部長(乳腺・内分泌外科) 貞本 誠治

この度、診療部長を拝命しました、貞本誠治と申します。1985年広島大学医学部を卒業し、広島大学第2外科に入学しました。その後、県立広島病院 国立大竹病院 広島大学病院(2外科 ICU)で勤務しました。また1994年広島大学原医研病理学の大学院を卒業しました。大学院の間、吉島病院に半年出張し、卒業後、吉田総合病院、呉市医師会病院、井野口病院で勤務しました。

実は私は、東広島市志和町出身です。地元の人間でジモティーと称する人もいます。当院外科は2000年より勤務しています。当初は消化器疾患も多く診療させていただきました。胃がん、大腸がん、時に肝臓がん、すい臓がんの手術を担当しました。乳がん患者さんは欧米では、ずいぶん前から女性がん罹患率の第一位でしたが、日本でも1995年ごろに女性がん罹患率第1位となり、以後も増加しています。よって現在で

は、おもに乳腺疾患(2020年95例)、甲状腺疾患(2020年24例)、副甲状腺疾患(2020年3例)を診療しています。

さて乳がん診断に非常に有用な、乳腺マンモトーム生検装置は、現在でも保有している施設は少ない状況です。県内で一番早く当時の外科医長 田部先生が、当院に1999年導入されました。ステレオ撮影の可能なマンモグラフィ撮影装置は、家が一軒建つぐらい値が張るのだと、言われていたものです。以後、エコーガイド ステレオガイドを合わせ1500例程度マンモトーム生検の経験があります。本年度からは、3代目のマンモトーム生検装置に置き換わります。本年4月からは、佐々田先生とともに、より一層診療に励みます。今後とも宜しくお願い致します。



## 診療部長に就任して

診療部長(麻酔科) 橋本 賢

5年前に麻酔科医長として着任し、この度診療部長を命ぜられました。

着任当初から手術件数は徐々に増加して年間3300件に迫る年もありました。しかし、新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、病床が抑制されたためか、最近の2年間は3100件前後で推移しています。

麻酔科内での人員配置にもかなりの変化がありました。これまでは、麻酔科標榜医を取得したあとの麻酔科医のみが配属されてきましたが、ここに後期研修医が加わることになりました。後期研修医はある程度の臨床麻酔の技量はあるものの、誰かの指導を得なければ業務を遂行できない状態にあります。そのため、患者様入室から手術開始までの時間が、過去より長くなりました。この点は反省もしながら、外科系各

科の先生方のご理解に感謝しているところであります。

また、令和3年10月からは東広島市から寄付講座を開設していただき、広島大学から特任教授、特任助教の先生方を迎え現在にいたっております。

麻酔科医として、まず考えなければならないことは麻酔の安全性です。さまざまな合併症を有する患者さんに対して、知識と技能を用いて安全を担保することは極めて重要です。

これからは、その上に、麻酔科医の効率的運用を図りたいと考えております。麻酔科医に効率的に働いてもらおうと、それが手術室の合理的な運用につながり、手術を希望しておられる患者様により多く対応できるものと思います。

わたくし個人としてはまだまだ至らない点が多いと思います。皆様のご指導、ご協力をお願いいたします。



# 整形外科部長に就任して

整形外科部長 今田 英明

この度、整形外科部長に就任いたしました今田英明です。平成3年に広島大学整形外科に入局後、広島大学病院、県立広島病院、尾道総合病院、松山市民病院、広島大学大学院、土谷総合病院を経て平成15年より当院に勤務しております。当院整形外科はもともと当院の前身が国立療養所であったことから脊椎カリエスに対する保存治療を主に行っていましたが、前部長の岸和彦先生の御尽力により外傷を中心とした手術治療を担う広島県中央医療圏の中核病院へと大きく発展してきました。私で4代目となります。現在、年間900件前後の手術を行っております。私自身の専門は外傷治療、手・肘を中心とした上肢の変性疾患やスポーツ障害であり、野球選手を中心としたスポーツ選手の治療も積極的に行っております。また当科の森亮医長は股関節の専門医であり、藤岡悠樹医長は経験豊富な脊椎外科医です。本年4月から村上欣医師(平成30年卒)、荻本文人医師(令和2年卒)の若い2

名も新たな整形外科スタッフとして加わり新体制での活動開始となりました。

近年、高齢者の増加に伴い、今まで経験することの少なかった外傷が非常に増加しています。また当地域が人口増加地域であるせいか若年者の稀な外傷が多いのも特徴であり、常に知識をアップデートしないと最良の医療を提供できません。このため当科では術前、術後カンファレンスに加え定期的な勉強会、論文抄読会を行っております。また初期研修医やレジデントの若い先生方の教育も極めて大切な責務であり、臨床指導に加え学会発表や論文執筆も積極的にアシストしたいと考えています。

今後、当地域における当院の役割はますます増加していきます。私たち整形外科一同、諸先生方のお力をお借りしながら地域のニーズに応えられるよう努力する所存です。今後とも何卒宜しくお願いいたします。



# 泌尿器科部長に就任して

泌尿器科部長 望月 英樹

初めまして。この度、藤原先生の後任として泌尿器科部長に就任致しました、望月英樹と申します。私は、平成8年卒。当院には今から17年前、病欠の医師に代わり、6ヶ月間在任しております。院長先生を始め、心外の森田先生、整形の今田先生、放射線科の富吉先生などと再びお目にかかる事ができました。また私が、県病、広総、三次、安佐市民を渡り歩いた中で知り合った先生方とも、ここで再会できました。旧知の先生がたくさんおられることは大変心強く、仕事がしやすいと感じております。

17年前、当院で私は上田部長の下、開腹手術で腎摘や前立腺全摘を行っておりました。その後、大学病院などを経て、11年前に市立三次中央病院の主任部長に就任。当時は開腹手術から腹腔鏡手術への移行期であり、気腹圧による出血量減少や拡大視野による詳細な解剖など、腹腔鏡手術に魅了され、これからは腹腔鏡だと、これに没頭。東広島医

療センターの腹腔鏡施設認定にも協力させて頂きました。さらに5年前に広島市立安佐市民病院へ異動し、ロボット手術に携わりました。手術用ロボットによる精密な手術操作や3Dモニターによる立体視に驚愕し、今度はロボットの時代だと、ロボット支援下手術のプロクターを取得しました。そこで本年度から当院の泌尿器科部長に就任した訳ですが、当院にはロボット手術の設備が無いため、再び腹腔鏡手術に適應すべく、鍛錬の毎日を送っております。

泌尿器科領域においては、否が応でもロボット手術が中心となっており、開腹手術はほぼ無くなり、腹腔鏡手術も減少傾向にあります。地域の実状に合った医療を行いつつも、今後私の経験が、東広島医療センターの発展に少しでも貢献できればと願っております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。



医療の  
話題 No.131

# 脳卒中の血圧管理を中心とした発症予防について

脳神経内科医師 松田 明子

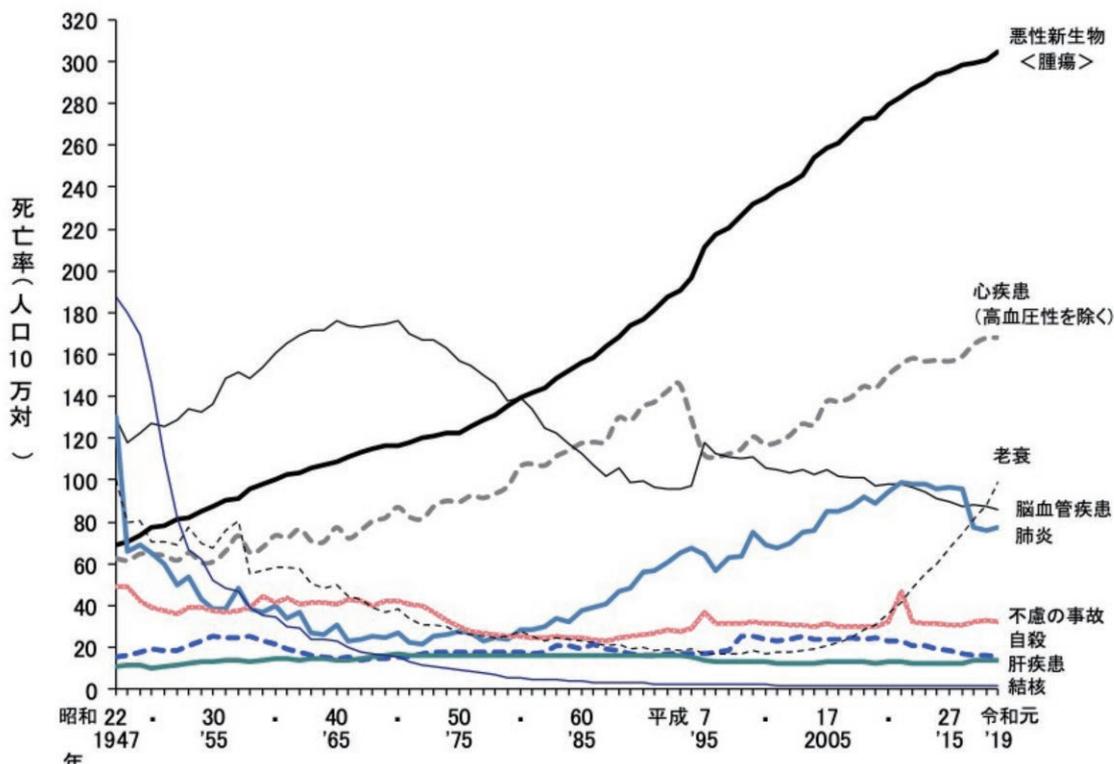
脳卒中は何の前触れもなく突然発症し、一度起こしてしまうと手足の麻痺や呂律困難などの後遺症のため日常生活に支障をきたすだけでなく、時に命に関わることもある重篤な疾患です。

1980年までは日本人の死亡原因の第1位を占めてい

ましたが、1965年頃より死亡率は低下し始め、現在では悪性新生物、心疾患、老衰に次ぐ第4位となっています(図1)。

脳卒中は脳梗塞、脳出血、くも膜下出血の大きく3種類に分けられます。1999年～2018年に脳卒中

図1 主な死因別にみた死亡率(人口10万対)の年次推移



注: 1) 平成6年までの「心疾患(高血圧性を除く)」は、「心疾患」である。  
 2) 平成6・7年の「心疾患(高血圧性を除く)」の低下は、死亡診断書(死体検案書)(平成7年1月施行)において「死亡の原因欄」には、疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないでください」という注意書きの施行前からの周知の影響によるものと考えられる。  
 3) 平成7年の「脳血管疾患」の上昇の主な要因は、ICD-10(平成7年1月適用)による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。  
 4) 平成29年の「肺炎」の低下の主な要因は、ICD-10(2013年版)(平成29年1月適用)による原死因選択ルールの明確化によるものと考えられる。

厚生労働省令和元年(2019)人口動態統計月報年計(概数)の概況より抜粋

データバンクに登録された患者さん169,991人のうち、脳梗塞は125,722人(74.0%)、脳出血は33178人(19.5%)、くも膜下出血は11,091人(6.5%)であり、脳梗塞の頻度が高いことが分かります(図2)。

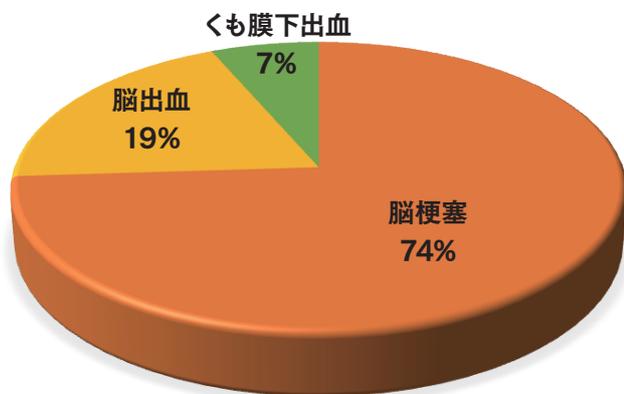


図2 脳卒中の割合(脳卒中データバンク2021より)

脳卒中をきたす危険因子としては、高血圧、高齢(65歳以上)、男性、喫煙、脂質異常症、肥満(BMI $\geq$ 25kg/m<sup>2</sup>)、糖尿病が挙げられ、特に高血圧は脳卒中に対する影響が強いとされています。

血圧120/80mmHgを超えて血圧が高くなるほど脳卒中の罹患リスク、死亡リスクは高くなると言われています。日本の高血圧患者さんは約4,300万人と推定され、そのうち3,100万人が血圧管理不良であり、このうち自分が高血圧と認識していない方が1,400万人、認識はしているが未治療の方が450万人、薬物治療を受けていても不十分の方が1,250万人いるとされています。

まずは自分の血圧を知ることから始めましょう。病院に来るとなぜか血圧が高くなるという方がいらっしゃると思いますが、これは「白衣高血圧」とも呼ばれ、実際病院では緊張などによって普段より血圧が高めに出ることが多いのです。ご自宅での血圧(家庭血圧)が最も参考になりますが、様々な環境要因や時間帯で大きく変動するため、測定する時間を統一することが大切です。もっとも参考になるのは、「朝(起床後)1時間以内、排尿後の朝食前、及び晩(就寝前)に座って1~2分安静後に測定したもの」になります。これを7日間(少なくとも5日間)行い、平均値を求めてください。家庭血圧の平均値が135/85mmHg以上ある場合には「高血圧」の診断となります。

日本人は濃い味付けを好む傾向があり、食塩摂取量が多いことが高血圧の一因となっていることが多くあります。現在男性は1日平均10.8g、女性は9.2g食塩を摂取していると言われており、適正な食塩量は男性8g、女性7gとされています。

高血圧患者さんの1日に摂取可能な塩分量は、厳密には1日食塩6g(小さじ1杯)未満と決まっていますが、毎日食塩量を計算しながら食事を摂るのは現実的ではなく、続きやすい方法としては、“減塩の味噌や醤油を使うこと”、“普段より味付けを薄くすること”などに気をつけるように指導することが多いです。

食事でその他に気をつけることとしては、野菜・果物を積極的に摂取し、コレステロールの多い食事を控えることも大切です。また、適正体重の維持(BMI 25kg/m<sup>2</sup>未満)が重要で、軽強度の有酸素運動を毎日30分、または週180分以上行うことが理想とされています。高血圧に気付いたらまずは生活習慣の見直しから始め、かかりつけ医の先生に相談してみましょう。

健康で長生きしていくためには、普段の生活から脳卒中などの予防をしていくことが大切です。



## はじめに

2019年12月に中国湖北省武漢市に端を發した新型コロナウイルス感染症(COVID-19)は急激な勢いで世界各地に拡散し、世界保健機関は2020年3月11日にパンデミック宣言を出しました。日本国内でも感染者数は増加し続け、4月7日には緊急事態宣言が發出され、東京都を含む7都府県が指定を受け、4月16日には全国に指定が拡大されました。

広島県においては、広島感染症・疾病管理センターが2020年1月より対応の協議を始めました。広島県には5つの感染症指定病院があり、当院はその一つです。しかし当院は一つの病棟ユニットの中で結核の患者と新型コロナウイルス感染症の患者を同時に治療することとなります。長きにわたり広島県の結核患者治療を支えてきた病床ですが、広島県と協議、指導のもと結核患者を他の病院へ転院して頂き、新型コロナウイルス感染症への対応に専念することとしました。多くのスタッフの努力で2月7日よりその体制が整いました。とは言え多くの難題があり、一つずつ一つずつ前に進んでいきました。

日本全体や広島県との状態に呼応するように環境を整備・改変し、スタッフのゆれる心もかみしめながら、そして多くの支援を受けての医療現場でした。

当院には東広島市を含めた広島中央医療圏22万人の唯一の急性期総合病院としての使命もあります。新型コロナウイルス感染症と闘いつつ、当地域を守る2.5次救急医療体制を保持しつつ、通常医療の機能維持が求められます。コロナ感染者の入院受け入れやPCR検査への協力のため、一部の医療体制を縮小するなどもしましたが、これまでは当院の役目を果たしてきました。医師会や行政との連携も強化し今後も当地域の医療を守り、COVID-19とも戦い続けてきますが、この2年間(2020年、2021年度)の活動を備忘録として一部ではありますが、まとめることとしました。

当院の感染症委員会の臨時部門としてのコロナ対策本部(HCC)のメンバーの協力のもとここに記します。

院長 勇木 清

## 新型コロナウイルス感染症(COVID-19)の概略

COVID-19 (CoronaVirus Infectious Disease, emerged in 2019よりの命名)

これまでにヒトコロナウイルスは4種が同定されており、感冒の原因の10～15%を占める病原体として知られている。このコロナウイルスのうち、2002年中国・広東省に端を發した重症急性呼吸器症候群(SARS)、2012年にはアラビア半島で中東呼吸器症候群(MERS)が報告され注目されている。

2019年12月に中国・湖北省武漢市で発生した原因不明の肺炎は、新型コロナウイルス(SARS-CoV-2)が原因であることが判明。このSARS-CoV-2による感染症はCOVID-19(感染症法では新型コロナウイルス感染症)と命名された。2022年4月現在、国立感染症研究所は、世界保健機関(WHO)等の評価を参考に、国内における感染・伝播性の増加や抗原性の変化が懸念されるSARS-CoV-2の変異株をVariants of Concern(VOC)としてアルファ株、ベータ株、ガンマ株、デルタ株、オミクロン株などに分類している。2021年1月上旬、5月上旬(アルファ株中心)、8月下旬(デルタ株中心)をそれぞれピークとする流行が発生した。2022年1月からは、デルタ株からオミクロン株に急速に置き換わりがすすみ、この感染流行を今までの経過から第6波としている。

## 当院の検査体制の経過

### 新型コロナウイルス感染症検査機器の導入

LAMP法で対応	2020/4/27 院内検査として運用開始	2020年：227件(陽性：1)
GeneXpertシステム* GX-XVI導入*	2020/11/24 運用開始	2020年：10件(陽性：2) 2021年：1189件(陽性：18) 2022年(3/31まで)：942件(陽性：72)
BD max 導入*	2020/12/21 運用開始	2020年：41件(陽性：2) 2021年：2790件(陽性：19) 2022年(3/31まで)：1,051件(陽性：24)
抗原検査	2020/7/27 運用開始	2020年：23件(陽性：0) 2021年：844件(陽性：3) 2022年(3/31まで)：551件(陽性：40)

\*はPCR検査機器

### ドライブスルー PCRセンター

東広島地区医師会が開設主体  
場 所：東広島市総合福祉センター  
2021年4月より東広島保険医療センター  
検体採取：当院初期臨床研修医と高橋副院長が主体となり  
平日昼に採取  
期 間：東広島市、西部東保健所職員などがサポート  
2020.4.21開始～2021.8月まで  
**2020年度 139回、2021年度 78回実施**  
2021.8月より医師会も参入  
2021.8月末まで検体数 **2,749件**  
2021.9月以後は医師会員のみで運営



### 患者へのPCR検査対応

2020年5月 暴露の危険性が高い耳鼻咽喉科で術前患者を対象にLANP法による遺伝子検査開始  
2021年1月12日 予定入院で全身麻酔手術を受ける患者にPCR検査  
2021年1月末より 緊急手術、休日入院患者を含めて全身麻酔手術全例のPCR検査を実施  
2021年10月より 対象を脳血管カテーテル(予定)、消化器内視鏡検査(上部EMR/ESD、ERCP)に拡大。  
検査オーダー・リスト化も予約枠を使用し手続きを簡素化  
2021年同年12月より 気管支鏡検査も対象に。

### 病院職員及び関係者の検査体制

2021年10月 看護学生実習前に唾液でのPCR検査開始  
2021年12月 医学生見学実習前に唾液でのPCR検査開始  
2022.2.28より3.31 当院職員およびその家族のPCR検査開始  
委託職員のPCR検査開始

# 東広島医療センター 新型コロナウイルス感染症対策の2年間の軌跡

Courtesy throught HCC ( Headquarters for countermeasures against COVID-19 )

年月日	コロナの情勢	年月日	当院の情勢	年月日	感染対策関係
2020/1/30	●世界保健機関(WHO)は緊急委員会で「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態」として緊急事態を宣言。	2020年1月末	●広島県感染症対策(CDC)と協議		
2020/2/1	●感染症法に基づく「指定感染症」、検疫法に基づく「検疫感染症」に政令で指定。	2020/2/6	●当院臨時管理診療会議で新型コロナウイルス感染症を受ける体制を院内で整える旨発表と了解	2020/2月初旬	●サージカルマスクが品薄状態になり当院の在庫も減少。
2020/2/11	●世界保健機関(WHO)は新型コロナウイルス感染症の正式名称を「COVID-19(coronavirusdisease 2019)」とすることを発表。	2020/2/7	●感染症ユニットの感染症病床20床すべてを新型コロナウイルス感染症用に利用することを広島県に伝え、広島県より了承	2020/2/20	●広島県よりマスクの供給有。通常ルートでの当院へのマスクの供給は停止し用途は立たない。
2020/2/28	●文部科学省が小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等学校の一斉臨時休業を要請。	2020/2月初め	●感染症ユニットの結核病患者6名を他の感染症指定病院へ ●1病棟を中心にコロナ患者の対応を検討 ●PPEをはじめ医療材料など物品調達を急ぐ		
2020/3/11	●世界保健機関(WHO)はパンデミック(世界的大流行)を宣言。	2020/3/1	●全病棟面会禁止とする		
2020/3/24	●東京五輪・パラリンピック 約1年の延期を決定。				
2020/3/26	●日本政府、特措法に基づく対策本部設置				
2020/4/1	●第1回広島県新型コロナウイルス感染症患者受入れ調整本部会議	2020/4/2	●当院新型コロナウイルス感染症対策本部設立(HCC) (Headquarters for Countermeasures against Covid-19)	2020/4/2	●HCCにおいて、毎週PPEの在庫状況報告。
2020/4/7	●日本7都府県に緊急事態宣言。	2020/4/8	●48歳男性コロナ患者 当院初入院		●消毒用エタノールおよび手指消毒剤の需要増大による供給不足が深刻化したため、病院内でこれらを調製し供給を開始する。
2020/4/16	●「緊急事態宣言」全国に拡大。13都道府県は「特定警戒都道府県」と位置づけられた。	2020/4/9	●里帰り分娩の制約	2020/4/16	●職員の感染防止のため、外来受付
		2020/4/21	●東広島市PCRセンター開設 (医師看護師を当院から派遣) ●東広島市総合福祉センター		
					
				2020/4/24	●厚生労働省よりPPEの「緊急事体制」発出 ●当院でも、マスクに加えてガウンやゴーグルも入手不可能となる
		2020/4/23	●障害者施設へ医療班派遣 ●結核医療の対応の伝統を重視し新型コロナウイルス感染症も空気感染をおこしえる前提で感染予防する ●対応全室に陰圧、HEPAフィルターを装備 ●ICUは感染者・疑い例入室時にはICUの空調を調節 ●陽性患者はN95マスクの対応は必須 ※特殊救命室の立ち上げ		

年月日	コロナの情勢	年月日	当院の情勢	年月日	感染対策関係
2020/5/4	●新型コロナウイルス感染症対策専門家会議の見解: 5月4日の提言では、新型コロナウイルスを想定した「新しい生活様式」を発信。			2020/5月初旬	●民間からマスクやアイシールドの支援が始まる。病院取引先やホームセンターでレインコートやマスクをかき集める。
2020/5/7	●感染症指定病院の5病院体制から4月末より徐々に病床拡大県内基幹病院の体制整う ●県内基幹病院の患者受け入れ態勢が徐々に体制整う	2020/5/20 2020/5/21	●各種問診票を修正 ●新型コロナウイルス疑い患者受入フローチャートを作成 ●新型コロナウイルスまん延に対する電話診療による処方箋発行手順を作成		
2020/7/22	●新型コロナウイルスの感染拡大で打撃を受けた観光業への支援策「Go Toトラベル」が7月22日、東京都を除外して始まった。10月1日から東京都も対象に。	2020/6/5 2020/6/9 2020/6/27	●新型コロナウイルス感染拡大防止のための対処方針Vol.1を発信 ●HCUのコロナ患者入室時の検討 ●広島県主催のEKUMO講習会に参加	2020/8/31	●緊急事体制から警戒体制に移行。依然供給は不安定であるが、国や県、民間からの支援で持ちこたえる。
					
					
2020/12/1	●大阪の市立病院 看護師不足でがん治療など一部の病棟閉鎖。また大阪府の吉村知事は7日、15日に運用が始まる「大阪コロナ重症センター」で看護師が不足する懸念があるとして自衛隊に派遣を要請	看護体制強化 2020/12/1	●救急外来へ救急担当看護師の配置開始 ●3~6病棟からの応援体制 平日 - 準夜、深夜各1名 休日 - 準夜、日勤、深夜各1名	2020/10/8	●正面玄関にサーモカメラ設置
2020/12/14	●アメリカでファイザー社製ワクチン接種が始まる	2020/12/12	●老人福祉施設へのPCR要請あり医師4名で施行		
2020/12/26	●変異種(デルタ株)が出現 ●厚生労働省は12月26日、英国に滞在歴のある都内在住の30代男性と、その濃厚接触者の20代女性の計2人が、感染力がより強いとされる新型コロナウイルスの変異種に感染していたと発表した。27日には計8人に増加した。	2020/12/25	●薬局PCRインスペクションチーム立ちあげ ※1病棟トリアージ体制室 ●感染患者のトリアージ診察のため西側駐車場から事務職員が誘導 ●診察室、レントゲン撮影室、 ●物品貯蔵、ゾーニング対処室"		
2021/2/14	●アメリカの製薬大手ファイザーが開発した新型コロナウイルスのワクチンについて、厚生労働省は14日午後、正式に承認した	2021/2/1	※HCU個室へ重症患者受け入れ準備 ●HCU夜勤4人体制開始(他部署から、重症患者に対応できる看護師の応援開始) ●2病棟夜勤4人体制維持"	2021/2/22	●当院でワクチン接種の開始
					
				2021/4/30	●オンライン化面会の開始
					

# 感染症患者治療概要まとめ

## 新型コロナウイルス感染症患者治療概要

### 新型コロナウイルス感染症患者数

(調整本部からの受診要請患者、他院からの紹介患者、当院直接受診患者)

	令和2年度	令和3年度	合計
診察患者計	255	1,340	1,595
入院患者計	96	333	429
外来患者計	159	1,007	1,166

### 新型コロナウイルス感染症患者数

(調整本部からの受診要請患者のみ)

	令和2年度	令和3年度	合計
トリアージ患者計	248	1,208	1,456
入院患者計	91	308	399
外来患者計	157	900	1,057

### 疑い例入院患者数

	令和2年度	令和3年度	合計
疑い例入院患者計	117	378	495

### PCR施行数

	令和2年度	令和3年度	合計
PCR施行計	1,043	5,548	6,591
術前等検査(LAMP法含む)	602	1,960	2,562
疑いPCR施行(LAMP法・抗原含む)	441	3,588	4,029

## 新型コロナウイルス治療薬の推移

- 2020.12.11：ベクルリー点滴静注(レムデシビル)使用開始
- 2021.04.30：アクテムラ点滴静注(トシリズマブ)使用開始
- 2021.05.07：オルミエント錠(バリシチニブ)使用開始
- 2021.08.06：ロナプリーブ注射液(カシリビマブ/イムデビマブ)使用開始
- 2021.12.31：ラゲブリオCap(モルヌピラビル)使用開始
- 2022.01.02：ゼビュディ点滴静注(ソトロビマブ)使用開始
- 2022.03.01：パキロビッドパック(ニルマトレルビル/リトナビル)使用開始

### covid治療薬使用歴(2年分)

		2020/11-2021/3	2021/4-2022/3
ファビピラビル(アビガンR)	2020/4/8～	21	2
レムデシビル(ベクルリー)	2020/12/11～	12	123
トシリズマブ(アクテムラ)	2021/4/30～		4
バリシチニブ(オルミエント)	2021/5/7～		34
カシリビマブ/イムデビマブ(ロナプリーブ)	2021/8/6～		46
モルヌピラビル(ラゲブリオ)	2021/12/31～		26
ソトロビマブ(ゼビュディ)	2022/1/2～		10
ニルマトレルビル/リトナビル(パキロビッドパック)	2022/3/1～		2

# 患者統計資料

## 当院に入院した患者の重症度（「入院患者数の推移」のグラフと一部重複しています）

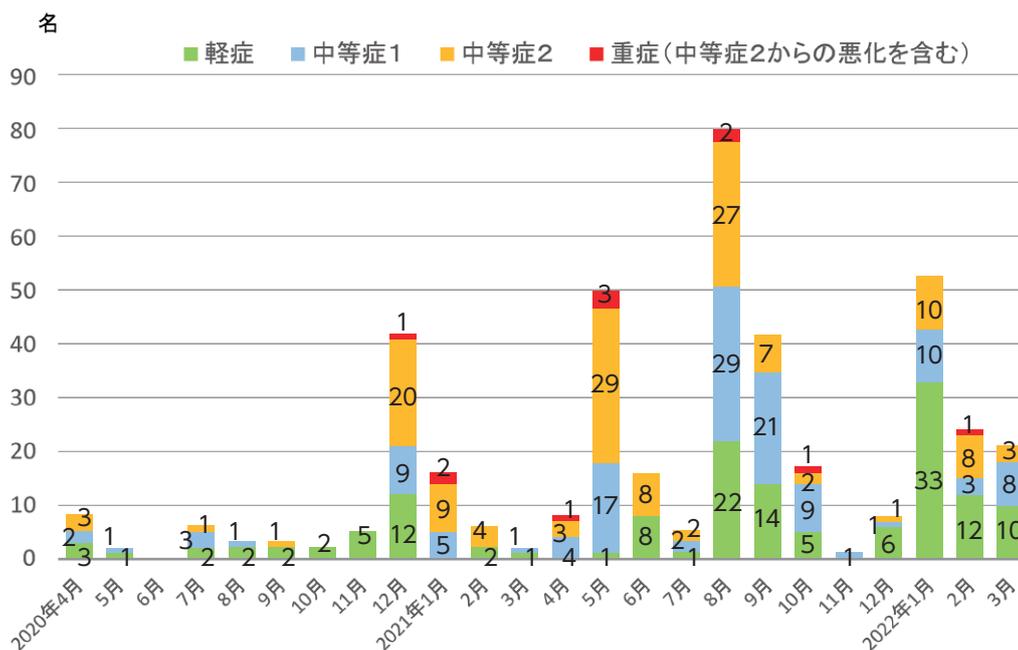
	計	軽症	中等症1	中等症2	重症
2020年度(2020年4月～2021年3月)	95名	32	22	38	3
2021年度(2021年4月～2022年3月)	323名	104	113	98	8

重症には中等症2からの悪化も含む

## 当院に入院した患者の退院時転帰

	計	自宅	宿泊療養所	転院		施設	死亡
				ICU	療養		
2020年度(2020年4月～2021年3月)	95名	62	11	3	9	5	5
2021年度(2021年4月～2022年3月)	323名	262	25	5	13	11	7

### 入院患者数の推移



## あ と が き

新型コロナウイルス感染症は令和4年度の夏を迎えようとしている現在も続いています。オミクロン株に置き換わり、さらにBA5の登場で6波から過去最大の7波へと日本中に広がっています。重症度は低いようですが、病院内はゼロコロナでなくてはならず、緊張感を緩めることができません。今回の軌跡に記せていないことは多くあり、特に感染制御チーム(ICT)の頑張りや病院スタッフ挙げての対応、支えて頂いたすべての方々に改めて感謝申し上げます。今後も感染症との対峙は続きますが、ご支援ご協力宜しくお願いします。

院長 勇木 清

# 東京病院臨時医療施設への 医師派遣について

呼吸器内科医師 三好 由夏



この度新型コロナウイルスのオミクロン株による感染拡大に伴い、5月上旬に1週間程度、国の派遣医師として国立病院機構東京病院の臨時医療施設へ勤務させて頂きましたのでご報告させていただきます。

“臨時医療施設”と言われても耳馴染みのない方も多いかもかもしれませんが、簡単に言えば全国的に増加したコロナ患者さんの受け入れ施設です。昨夏、過去最大の感染拡大となった新型コロナウイルス第5波による影響を踏まえ、通常医療の逼迫に備えるべく全国各地でこのような臨時医療施設が立ち上げられました。派遣先の東京病院もその一つであり、多くのコロナ患者さんの受け入れを行ってまいりました。

東京病院の臨時医療施設はプレハブで2病棟、計80床あり都の入院調整本部からの依頼で軽症・中等症の方の受け入れをしていました。その中でも施設で集団感染し、重症度こそ高くないものの認知症や知的障害があり病院での対応が難しい患者さんが多く見受けられました。COVIDとしての対応は難しくない一方で、徘徊し隔離場所を出てしまふ、

危険が及ばないよう病室の扉を施錠すれば鍵が壊れるほどに扉を叩いたりするなどまだまだ解決すべき点は多く、医療者内で相談しながら個人個人に合わせた対応が必要でした。また受け入れ患者さんは高齢者がほとんどですが、臨時施設のためリハビリや栄養療法なども難しく、運動機能が落ちやすくそれぞれに合わせた食形態がより必要となる高齢者においても最善の対応は難しいことから、クラスターが発生した施設へ医療者の派遣を行うなどの打開策が必要ではないかと感じました。

今回の派遣を通じ、新型コロナウイルスによる医療への影響について、日々の忙しい診療から抜け出し立ち止まって考え直す良い機会を得られました。また全国各地の医療者の皆様と時間を共有できたことで、場所は違えども各地で奮闘されておられる方々がいらっしゃることを知りとても心強く感じました。この経験を活かし、呼吸器内科として社会に貢献していけるよう、より一層精進してまいります。



# 新型コロナウイルス感染症の 看護師派遣について

5病棟看護師 濱咲 いつえ



この度、4月1日からコロナ感染者のホテル療養支援のため、東京に1カ月間派遣されました。ホテル療養は感染期間の10日間をサポートします。配属された医療機能強化型・妊婦支援型施設は、感染宿泊療養施設に医療機能を付加した施設です。対象者は軽症から中等症I。医療処置は酸素投与、中和抗体薬治療、経口薬投与です。妊婦支援はかかりつけ医、産科の後方支援病院と連携し治療や健康相談、療養生活のサポートを行います。

受け入れ可能数は200床で、50～70床程度の利用状況でした。毎日10人前後の入退所があり、リスクカテゴリーA・B対象となる高血圧や糖尿病等の既往や妊婦が50%を占めます。

従事するスタッフは、東京都職員とホテル職員、警備員が事務局担当し、民間派遣会社看護師と全国から招集されたNHO看護師は2交代の勤務体制でした。ホテル全体をゾーニングし、入所者と医療従事者、スタッフとの動線を分離し消毒やレッドゾーンに入室する防具の着用など感染対策を徹底しました。

4月より都内では妊婦受け入れ施設が当ホテルのみとなりました。妊婦のなかには市販の妊娠反応で妊娠を知

り、罹患したため産婦人科に受診できていない方や、胎動の感覚が解らないと不安を訴える初産婦もいました。

看護師は電話で問診対応します。顔が見えない相手とのやり取りで状況を判断するのは難しく、声のトーンや会話から安心材料を導いたり、咳の様子、会話での息使いなど敏感に捉えながら状況を把握していきました。時には広島弁を懐かしいと応えてくれた入所者もいました。

皮膚の発疹など直接対面が必要な場合はガラス越しで面会できる限定ブースで行いました。民間派遣会社看護師と情報交換し、NHO看護師で電子カルテの操作や入力ルール、中和抗体療法の手順マニュアルを作成しました。最初は慣れない業務に戸惑い「こんな答え方で良かったのだろうか?」と不安になることもありましたが、思う事は皆一緒に、些細な事でも常に話題にし、各自が専門分野の知識やすでに体験した経験値などを教え合う事で仲間意識が芽生えました。

電話問診という限られた状況のなか、いかにして寄り添った看護ができるか日々振り返り、語り合う事ができた忘れがたい仲間との出会いとなりました。



# 新型コロナウイルス感染症宿泊療養施設 への派遣を終えて

3 病棟看護師 宅野 和幸



この度、厚生労働省より機構外施設への派遣要請があり、2月17日から3月31日まで、大阪府に設置された診療機能強化型宿泊療養施設へ配置されました。

現場は入所者が既におられる中で、予想以上に働く環境が整備されておらず、感染区域と非感染区域の仕分けが出来ていない、必要な物品がほとんどない、ルールやマニュアルがないなど、様々なことが追いついていない状態でした。ダイヤモンドプリンセス号をはじめ、様々なコロナの現場への派遣経験がある方が「こんな過酷な現場は初めて」と眩いていたのを聞いて、病院という整備された環境の中でしか働いた経験のなかった私は、改めて大変な現場に来たなと実感しました。

ホテルは14階建てで、8階以上は自立している方の軽症者ゾーン、7階以下は既往やADL、呼吸状態などから医療的フォローが必要と判断される方の中等症ゾーンとして運営しました。軽症者ゾーンは、自立しているが生活環境の関係で家族との隔離が難しい方が入居する場所、中等症ゾーンは緊急で病院に入所するほどではないが、点滴や酸素投与が必要など、在宅療養の難しい方が入居されていました。軽症者ゾーンは国の管轄であり、今回派遣された者は全員、大阪府の委託を受けた大阪医科薬科大学の管理する中等症ゾーンを担当しました。2月下旬までの2週間は、感染区域と清潔区域間での通信手段が全くなく、感染区域から連絡する際は清潔区域に向け大きな声で人に呼びかけるといふ、大変不便な環境でした。徐々に環境が整い電子通信機器や各種検査機器が導入され、最終的には病院の機能と

同等になりました。1つのホテルを国と大阪府2つの行政が管轄するため、患者情報を国と大阪府それぞれに登録する必要があり、また管轄が違うことで働く階によって使用できる物品が変わるなど、看護師だけではクリアできない行政関連での課題も多くみられましたが、大阪府の担当者の方や大阪医科薬科大学の事務の方と綿密に協力し、問題を解決していきました。

環境が整備されていないことと同様に問題だったのは、スタッフ間のコミュニケーション不足でした。北海道から沖縄まで、年齢や組織の異なる様々な人間が91人集まり、副看護部長から一般職員まで、年齢は20代から60代までと様々なキャリアの人が一緒に物事を始めることは予想以上に大変でした。最初の1週間は慣れない環境と人間関係から体調を崩してしまうスタッフもいました。私はまずコミュニケーション不足の問題を改善しないと前に進めないと考え、現場の管理者に状況や必要性を説明し、許可を得て感染対策を取りつつ、休日に飲食会を企画しました。結果、スタッフ間でチームワークが向上して強い絆が生まれ、スムーズな現場運営へと繋げることが出来ました。

スタッフによって派遣期間は1週間から1か月半と違いがありましたが、入所者の方は症状が重症化する前に対応することで、命に関わるような事態にならず退所出来たことや、医療者側は1人の陽性者も出さずに派遣期間を無事終了できたことを、何より誇らしく思っています。また改めてこのような緊急の場におけるチームワークの重要性についても再認識することができました。昨今、報告された研究結果によると、新型



HER-SYS入力画面



HER-SYS入力画面



レッドゾーンの入口

コロナ感染拡大初期に対応していた医療スタッフの30%以上に何からの精神疾患が内在していたとの研究結果が出ていました。今回の派遣においては、ゼロから物事を進めていくことに加え、見ず知らずの人達と不慣れた土地、物資の不足した中での援助ということで、新型コロナ初期と同等のストレス環境にあったと思います。その中を皆で力を合わせてやり遂げたこと、日本中に仲間が増えたことは、私の看護師人生において大きな財産となりました。

中等症の入所者のほとんどは75歳以上の高齢者であり、既往に認知症や精神疾患などがある方も多くおられました。が、せん妄となる入所者数が病院と比べはるかに少ないと感じました。最短でも10日弱の入所期間がある中、せん妄

発症率が少ないと感じた理由は、自宅と比較した時の病院とホテルとの環境変化の違いにあると考えます。隔離され、医療者は全身防護具対応ですが、それでも入院環境と比較するとホテルはより家庭に近い環境で生活できているように思いました。入院中に、自宅や家族を思い出せるような私物を持ってきていただくなど、高齢者にとって入院に伴う環境変化のストレスをいかに軽減するか、その重要性を再認識できたことも、今回得た学びとなりました。

最後に、今回貴重な経験の場を与えていただき、私を送り出して下さった院長先生をはじめ関係者の皆様へ感謝します。



ロジスティック



食堂を利用したミキシング台



物品置き場(軽症・中等症)



オフショット(誕生会)



最終日集合写真

## NSTとは？

臨床検査技師 糸谷 祥子

NSTとは「栄養サポートチーム(Nutrition Support Team)」の略です。患者さんの栄養状態を改善するにはどうすればよいかを多職種で話し合い、解決策を提案する活動を行っています。当センターでは毎週金曜日に対象患者さんのカルテを見ながらカンファレンスおよびラウンドを行い、状態観察や摂食状況、食の好みや体調を直接聞き取りします。その結果から食事内容の変更・ごはんが食べられない患者さんであれば、投与ルート、栄養剤、点滴の種類の変更を提案します。

### 栄養不足だと何が起ころの？

病気になると、体はより多くのエネルギーを必要としますが、病気による食欲・気力の低下でごはんが食べられなくなる人がたくさんいます。栄養が不足すると体は筋肉を分解しながらエネルギーを作り出すので、体はどんどんやせ細り、病気と闘う体力がなくなっていきます。最新の手術を行っても、高い薬を使っても、栄養が不足している状態では病気はなかなか完治しないのです。

### 食欲と亜鉛のおはなし

みなさん、「亜鉛」という栄養素、知っていますか？ 高校の化学の教科書に載っていたような…？ という記憶のある方もいらっしゃると思います。この「亜鉛」、実は体にとって無くてはならないものなんです！

亜鉛は体内でたくさんの働きをしていて、特に味覚と大きく関係しています。私たちは舌の表面にある「味蕾(みらい)」によって、味を感じています。味蕾は短い周期で細胞が生まれ変わり、その際にたくさんの亜鉛を必要としま

す。亜鉛が不足すると細胞の生まれ変わりがスムーズにいかないため、味覚障害を引き起こしてしまうのです。

亜鉛不足は、ファストフードや加工食品ばかりの偏った食事や、頻繁な飲酒によって引き起こされます。また、飲んでいるお薬にも亜鉛の消費を早めてしまうものがあります。

亜鉛は牡蠣や蟹などの魚介類、牛肉やレバー、乳製品、海藻、ココアや豆類などに多く含まれます。亜鉛は水溶性のため、調理の際には短時間で加熱して水分が出ないようにしたり、汁ごと食べられるスープなどにすると無駄なく摂取できます。また、サプリメントやゼリー、またはジュースなど、市販で購入できる栄養補助食品・飲料などを取り入れるのもよい方法です。

最近、ごはんが美味しくない、食欲が無いなどの症状を感じたら、一度亜鉛不足を疑ってみるのもいいかもしれませんね。当院では亜鉛の血中濃度を測定する検査を行っています(外注検査)。気になる方は是非、一度ご相談ください。



研修医  
紹介

# 新研修医 あいさつ

初期臨床研修医2年  
**相原 彩貴**  
(あいはら さき)



はじめまして。初期臨床研修医2年目の相原彩貴と申します。1年目は広島大学病院で研修し、今年4月から東広島医療センターで研修させて頂くことになりました。まだまだ慣れない環境で戸惑う事も多いですが、同時に様々な経験ができ本当に充実した日々を送らせていただいています。

自己紹介をさせていただきます。私は広島県生まれ広島県育ちで、広島大学附属東雲中学校、広島大学附属高校を卒業し広島大学に入学しました。中学では陸上部、高校ではバスケットボール部に所属していましたが、大学では部活には入らずヨガやランニングなど自分のペースでできる運動を楽しみつつホテルスタッフや塾講師など色々なアルバイトを渡り歩いていました。趣味はひとり旅で、大学時代は突然思い立って博多や京都、北海道など様々な場所に行き、きれいな景色や美味しいものを楽しむことを自分へのご褒美にしていました。最近ではコロナ禍のため旅行にはなかなか行けていませんが、世界各国のきれいな街並みの写真集や美味しい食べ物のお取り寄せをして自宅で旅行気分を味わう事を楽しんでいます。ちなみに写真は実家のインコです。現在3種類(オカメインコ、サザナミインコ、ホオミドリアカオウロコインコ)5羽が生息しており、家主より圧倒的な存在感を放つ非常に愛らしい子たちです。

最後に、至らぬ点多くスタッフの皆様にはご迷惑をお掛けする事と思いますが、東広島の医療に少しでも貢献できるよう努力して参りますのでご指導、ご鞭撻のほど宜しくお願い致します。

初期臨床研修医2年  
**増成 寿浩**  
(ますなり としひろ)



4月から東広島医療センターで研修をさせていただいております。研修医2年目の増成と申します。1年目は広島大学病院で研修をしておりました。広大での経験も生かして精いっぱい頑張りますのでどうぞ皆さまよろしくお願いたします。

すこし自己紹介をさせていただきます。広島生まれ広島育ち中高は銀河学院に通っておりました。どうやら東広島では銀河学院の知名度が低いようなのでぜひこの機会に覚えてくださいね。「え??ギンガって銀河(笑)?」脱却を目指しています(笑)。趣味といえるほどのものはないのですが、筋トレを日課にしています。理想の体に近づくために日々筋肉に対して傾聴と共感の心をもって接しています。まだいけるのか? まだいけるのか? どっちなんだい?! ヤー——ッ!

はい。こんななかやまさんに君好きな私ですが、やる気げん気でフットワーク軽くやってみます。なんでもお声がけください。

東広島に来てはや1か月が過ぎようとしています。最初の2、3週間は毎日病院にいてもオペに入っても「なんかひま!!」を感じておりましたが、知り合いも増えてきて楽しくなってきました。充実です。ここまで読んでくださった方、少し暖かくなってきた西条ですが風邪をひかれぬようお気を付けください(だれが寒いやい!)。今度はもっとなんかクスッとさせますね(笑)。

初期臨床研修医1年  
**角 美里**  
(かど みさと)



皆様はじめまして、研修医1年目の角美里と申します。  
今年、広島大学を卒業し、4月から、東広島医療センターで研修をさせて頂いております。

東広島医療センターの温かい雰囲気を魅力に感じ、本院を志望いたしました。研修が始まり、ますます頑張ろうと思っております。

趣味は、旅行と料理、他にも星を眺めたり、スキーやドライブも楽しんでいます。普段から自然の中でゆっくりすることが好きで、コロナ流行前にはいろいろな場所を訪れました。特に旅行先で印象に残った場所を紹介します。

1、2枚目は鹿児島県の屋久島に行った時の写真です。よく雨が降る島で、霧がかかっている風景は幻想的でした。何千年も前から生き続けていると言われる木々や、深い森の中で岩と苔が映える神秘的な情景を間近で見ることができ、感動しました。3枚目は、愛媛県の石鎚山に登った時の写真です。中四国最高峰の山で、岩場を登り、雲海の上に出ました。青空を背景に、そそり立つ山頂と鮮やかな紅葉を見ながら、ゆったりとした時間を過ごせたのが印象的でした。4枚目は、香川県の直島にいった時の写真です。島のあちこちにあるアートを見ながら、カフェを巡るレンタサイクルでの旅が楽しかったです。途中の美術館のカフェでは、海の眺めを満喫しました。最後は、マカロン写真です。以前メレンゲ料理にはまった時は、シフォンケーキ、スフレ、マカロンなどを作っていました。他にも、プリン、ジャム、ソースなど色々作りました。これからも食べたいと思うものを自分でちょっと作ってみる、息抜きの趣味として続けようと思っています。

これから研修医としての2年間、たくさんのご経験し、医師として多くの方のお役に立てるよう、努力して参ります。まだまだ未熟で、ご迷惑をおかけするかと存じますが、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

初期臨床研修医1年  
**越智 裕貴**  
(おち ひろき)



東広島医療センターの皆様、初めまして！初期研修医1年目の越智裕貴と申します。まだまだ分からないことだらけで、院内で迷子になることも多々ありますが、先輩方に助けられつつ勤務開始から早いもので1ヶ月が経とうとしています。月並みかもしれないですが、これからも自分から積極的に学ぶ姿勢で頑張っていきます！

さて、意気込みだけ書いても自己紹介にならないので、自分のこれまでのことについても少し書かせていただきます。私は生まれも育ちも広島で、広島大学附属中・高から広島大学に進学したという広島の研修医としてはありがたい経歴です(笑)

これまでの先輩方は大学での部活動のことについて書いてらっしゃった方が多いのですが、僕は帰宅部で日々アルバイトに明け暮れておりました。懐かしの駅ビルASSEでお好み焼き屋のキッチン&ホール、エディオンで掃除機や空気清浄機の実演販売。この2つをメインのアルバイトとして頑張らつつ、その他色々な単発のアルバイトも経験してきました。大学に入学するまではわりと人見知りする性格だったのですが、接客業を中心にアルバイトをしてきたことによって人並みに克服できたことが最大のメリットだったなと感じております。デメリットとしては、カープの試合が終わって、閉店間際にお好み焼き屋に駆け込んでくる大勢の酔っ払いカープファンに接客し続けたことで、一時期は球場から広島駅に続くカープロードを歩くたびに「この道さえなければバイトが長引かないのに…！」と憎むようになってしまったことでしょうか(今はそんなこと思いませんしカープも好きです(笑))

頑張っても頑張らなくても2年間という研修医生活は一瞬で過ぎてしまうのさだろうと感じて少し寂しくもありますが、2年後に後悔がないくらい頑張れたと思えるほどに日々の仕事に打ち込んで、学べるものは全て学んでいます。

改めて、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い致します！

初期臨床研修医1年  
**川上 さくら**  
(かわかみ さくら)



皆さまはじめまして。初期研修医1年目の川上さくらと申します。今年4月より東広島医療センターで研修させていただいております。学生時代より、こちらでの研修をとっても楽しみにしていたので、今こうして初期研修医として充実した研修ができていることを嬉しく思います。

簡単に自己紹介をさせていただきます。広島出身、広島育ちです。小学生の時には2年ほどアメリカに住んでいました。基町高校出身で、合唱部に所属し、生徒会長を務めていました。大学は広島大学に進学致しました。写真が趣味で、子供と関わることも好きなので、学生時代は写真館でアルバイトをしていました。先日の卒業式の際には、アルバイト先で着付け、撮影してもらい、こだわりのコーディネートを実現することができました。一緒に写っているのは、現在医学科4年生の妹です。また、旅行も好きで、広島県観光アシスタント「ひろしま、宝しまレディ」として活動していました。観光アシスタントとしてのお仕事は多岐に渡り、東広島でのイベントや撮影にも何度か参加させていただきました。写真は、酒まつりの時にのん太さんと撮影したものです。広島愛は強く、第13回「ひろしま通」認定試験ではトップ賞を受賞し、鈴木誠也選手のサイン入りユニフォームをはじめ、豪華な副賞をいただきました。今後も広島のことを更に知り、発信していければと思います。県内県外問わず出かけるのが好きなので、是非お誘いいただければと思います！

医療と観光の両方の業界に片足ずつ突っ込むような学生生活を送る中で、コロナウイルスの感染拡大が生活に与えた影響にはとても考えさせられました。将来的には公衆衛生医師になることも視野に入れていますが、まずは日々の業務に専念し、実際の医療現場のことをよく知りたいと考えています。

最後になりましたが、至らぬ点も多々あるとは思いますが、やる気だけは十分ありますので、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い致します。

初期臨床研修医1年  
**谷 茂行**  
(たに しげゆき)



皆様、はじめまして。初期臨床研修医1年目の谷茂行と申します。今年の3月に広島大学を卒業し、東広島医療センターで研修させていただくことになりました。この記事を書かせていただいている時はまだオリエンテーションばかりですが、これから病棟や外来、手術等様々な場所で研修させていただきます。ご迷惑をおかけすることもあるかもしれませんがご指導ご鞭撻のほどよろしくお願いいたします。

簡単にではありますが自己紹介をさせていただきたいと思います。出身は広島で己斐小学校、広島学院中・高等学校を卒業しました。小中高はタレントの風見しんごさんと全く同じだそうです。その後、広島大学に入学し、今年3月に卒業しました。

中高時代は野球部に所属し野球漬けの日々を過ごしていましたが、怪我もあり大学時代には野球は見るものになりました。大学時代には、甲子園に高校野球を観戦しに行くのが毎年の楽しみでした。先日、完全試合を達成した佐々木朗希投手の高校時代のピッチングも神宮球場で見た衝撃は今でも鮮明に覚えています。

また、最近は家族の影響もありゴルフも楽しんでいます。始めたての頃は18ホールがとても長く感じましたが、最近は楽しく回れるようになってきました。今の目標はスコア90を切ることです。

最後になりましたが、まだまだ未熟ですし、分からないことだらけではありますが、皆様のご迷惑にならないよう、そして少しでもお役に立てるように頑張っていきたいと思いますので何卒宜しくお願い致します。

初期臨床研修医1年  
**椎野 裕登**  
(しいの ゆうと)



皆様はじめまして。4月から初期臨床研修医として勤務させていただいております椎野裕登です。広島大学出身で、地元も東広島に近く、地元の医療に貢献したいことから、東広島医療センターで研修させていただきたいと思いました。また先生方やコメディカルの方など、すべての職種の方々の雰囲気がとてもよい点も理由のひとつです。

簡単に自己紹介をさせていただきます。広島市出身で瀬野小学校、修道中高を経て、今年広島大学を卒業しました。小中で水泳、中高でサッカー、大学ではヨットとバドミントンと幼い頃からスポーツ漬けの日々を送っていました。大学では部活三昧、ヨット三昧の日々を送り、写真も大学のヨット部時代のもので、懐かしくもあります。卒業した今でも時折ヨットに乗り海に通っております。海がすきでなにか新しいマリンスポーツを始めたいと思っておりますので、オススメのスポーツがありましたら、ぜひお誘いいただけたらうれしいです。また、新たな趣味として、キャンプなどのアウトドアにも興味があり、バーベキューセットやテントなどいろいろ揃えていきたいと思っておりますので、ぜひおすすめの良い道具などあれば、ぜひ教えていただけたら幸いです。

まだわからないことだらけでご迷惑おかけすることも多々あると思いますが、ご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしく願いいたします。

初期臨床研修医1年  
**高橋 慎太郎**  
(たかはし しんたろう)



この度、東広島医療センターで研修をさせていただくことになりました、研修医1年の高橋慎太郎です。出身は東広島の八本松というところで、修道高等学校を経て福岡大学に進学し、この春無事卒業することができました。福岡での大学生活はとても楽しく、そのまま働くことも考えたのですが、故郷である広島の医療に貢献したいという思いが強くあり舞い戻ってきました。さらには地元である東広島で働けることに感慨深い気持ちがあります。東広島市は人口も急増中で、モールや道の駅など都市開発も盛んで、そんな今“キテル”町の医療に携われることを光栄に思います。現在は呼吸器内科で研修させていただいているのですが、診療科の先生方や患者さんから多くを学ぶ毎日で、少しずつではありますが成長を実感し、充実した日々を送っています。ウグイスのホーホケキョの鳴き声で起床する朝も悪くないなと思ってきました。

ここで軽く自己紹介をさせていただきます。中高時代は修道スクールバンド班という、いわゆる吹奏楽部でホルンという楽器を6年間吹き鳴らし、大学ではオーケストラ部に所属する傍ら、バドミントン部でシャトルを追いかけるといって青春を謳歌しました。名前は“慎”太郎ですが、全く慎重派ではなくとりあえずやってみる行動派なのが特徴です。この病院には高橋副院長先生がいらっしゃるの、下の名前ですんたろう先生と気軽に呼んでいただければ喜びます。

将来は、“大人も子どももみれる医師”を目指しています。おじいちゃんやおばあちゃんに優しく、子どもにも優しく接することのできる医師が僕の理想の医師像です。この病院では、小児医療を始めとして地域医療やがん医療にたくさん触れ多くを吸収し、地域の健康管理に貢献していきたいと思っています。医師としてまだまだ未熟ではありますが、精一杯頑張りますのでどうぞよろしく願いいたします。

写真は、大学の卒業式、病棟実習で苦楽を共にした友人と、熊本県庁前のルフィ像との写真です。

## 初期臨床研修医1年 土田 麻未 (つちだ あさみ)



はじめまして、初期臨床研修医1年目の土田麻未と申します。今年4月から東広島医療センターで研修させていただいております。東広島市で生まれ、高校はノートルダム清心高校、大学は高知大学に通ってました。地元である東広島市の医療に携わることができ、大変嬉しく思います。

趣味は動物と触れ合うことで、動物園や水族館、猫カフェなどに行くのが好きです。特に犬や猫を撫でるのが大好きですが、猫に触ると後で痒くなってしまいますのが悲しいです。写真に載っているウミガメは高知県の桂浜水族館、牛は高知県と愛媛県の県境に位置する四国カルストという山で撮影したものです。高知県には広い海、きれいな川、桜や紅葉の名所など、美しい自然が数多く存在しており、食べ物に関しても新鮮で美味しい海の幸を味わうことができます。特にカツオのたたきは絶品で、いつかもう一度食べに行きたいです。

部活動に関しては、高校は美術部、大学は弓道部に所属しておりました。絵を描くことが好きで、高校までは鉛筆画や油絵を描くことに没頭しておりましたが、大学からは健康に気を使い始め、運動部に入りました。弓道部を選んだのは初心者でも始めやすそうなスポーツで、袴姿に憧れていたからですが、運動はあまり得意ではないので、1人で弓を引けるようになるまでには少し時間がかかりました。しかし、先輩方や弓道経験者の同級生にたくさん指導していただき、大変な中でも楽しく練習することができました。弓道部を通じて、お互いに練習を見合ったり、困ったことがあればすぐに相談することの大切さを学ぶことができたと感じています。

東広島医療センターでも職員の方々が暖かく接していただき、わからないことがあれば丁寧に教えてくださるので、非常に相談しやすく、働きやすい職場だと思います。私も早く一人前になって皆様のお役に立てるように精進してまいりますので、ご指導ご鞭撻の程よろしくお願い致します。

## 初期臨床研修医1年 白根 拓 (しらね ひろし)



初めまして初期臨床研修医1年目の白根拓と申します。拓という字なのでよく『たく』と間違われますが、『ひろし』と読みますのでよろしくお願ひします。昨年度ホロ島大学医学部を卒業しまして、この4月より東広島医療センターで研修させていただいております。大学時代とは環境がガラッと変わり慣れないことばかりですが宜しくお願ひ致します。

出身は広島県、高校は愛光高校です。大学時代は、大学病院から自転車で5分くらいのところにお家がなかったので実家から通ってました。実家生なのに実家にいることは週の半分もありませんでした。大学時代ではラグビー部に入り、6年間を通して体力的にも精神的にも鍛えられたと思います。そのパワーを、これから医師として働くことに注げられたらと思います。趣味は、サウナ、麻雀、運動です。大学時代は毎日徹夜で麻雀をやるほど好きでした。よかったら麻雀とサウナのセットでどなたかいきましょう。

最後になりますが、これから東広島医療センターで研修医として働くにあたって、たくさんの方々にご迷惑をおかけすることがあると思いますが、少しずつ確実に医師として前進していけたらなと思います。これから宜しくお願ひ致します。

## 研修医 紹介

# 初期臨床研修医

岡 祐一郎

初めまして、私は東広島医療センター初期研修医2年の岡祐一郎と申します。

出身は香川県高松市ですが、大学から広島に来させていただき、広島のスバラしさに触れてそのまま広島県で研修させていただくことを決めました。とりわけ当院は広島中央医療圏の中核病院として高度な医療を提供する病院であり、しっかりとした研修ができることに加えて、美しい自然に囲まれた雰囲気がとても魅力的でしたので、研修先を選ぶ際には迷わず当院を選びました。

研修では毎日新しいことをたくさん学ばせていただいております、とても充実した研修生活を過ごしています。私は今年2月、3月に脳神経内科で研修させていただきました。患者さんと接する機会が多く、本で勉強する場合と異なり実際に“目で見て”疾患のことについて勉強させていただけるので、より深い理解を得ることができています。

また、集中治療室(ICU)に入院されている患者さんの診療に参加させていただく機会もいただき、目まぐるしく状況が変わる中、多くの問題点を一つ一つ分析しそれぞれに丁寧に対処していく毎日に多くの学びを得ています。一方でこのように多くのことを学ば学ばほど自分の知識の不足を痛感させられ、さらなる勉強の必要性を感じています。

新型コロナウイルス感染症の流行のため制限が多い中ではありますが、プライベートにおきましても友達と楽しく過ごしたり趣味に勤しんだり、楽しい日々を過ごしています。毎年初夏にはホタル鑑賞を一つの楽しみとしていますが、ここ西条では近くでホタルを見ることができるので、昨年の最盛期には毎日のようにホタルを見にいきました。また、昨年は趣味の釣りに何度か行くことができましたが、かねてより楽しみにしていた渓流釣りは機会が少なく十分に楽しめなかったため、次のシーズンはもっと積極的に釣行に出かけたいと思います。



まだまだ至らぬ点が多いですが、院内でお会いした際にはどうぞよろしくお願いたします。



## 感染管理認定看護師の 活動について

感染管理認定看護師 関岡 剛史

2018年に感染管理認定看護師の資格を取得し、2019年1月より専従看護師として感染対策活動をしています。感染管理認定看護師は、患者・家族・医療従事者だけでなく病院に関わるすべての人々を感染症から守る役割があります。最近、COVID-19感染症により感染対策の重要性や必要性が認知されてきました。

感染対策は、根拠に基づきながら、安全安心に取り組めるようにすることが大切となります。感染対策はICT(インフェクションコントロールチーム:感染制御チーム)を中心に考えて行っています。例えば、COVID-19感染症対策として目の保護をするためのアイガードの着用を令和2年12月から開始しました。医療従事者がCOVID-19感染の濃厚接触者にならないために行っています。濃厚接触者に該当する職員が多数発生した場合、病院の機能(外来診療・入院受け入れ・手術など)が止まってしまう可能性があります。病院の機能を継続して医療を提供することは、病院にとって大きな役割です。医療従事者を守り、病院機能を守ることで患者さんに不利益が起きないために、アイガードの着用が必要であるということを伝えています。

その他の活動としては、東広島地域や病院で行われる講習会に参加をして様々な感染症対策を伝えています。新型コロナウイルス感染症をはじめ、インフルエンザウイルスやノロウイルス感染症対策などの講習



会を行い、感染症の特徴と感染予防についてお話をしています。感染予防について、手洗いの方法やマスク・手袋・エプロンの着脱方法について、写真を用いてポイントや注意点をお話させて頂いています。様々な医療機関で研修を行うことで、感染対策が地域で根付いていくことを願いながら活動をしています。

感染症対策は、一人では出来ません。職員全員が対策を実践することが必要です。私は先輩看護師から「感染症対策は100-1=99ではなく0になる。」という言葉聞いた時、私もそのことを伝えていこうと思いました。

これからも感染管理認定看護師として、病院内外の感染対策に取り組んでいきますので、よろしくお願いたします。

### サージカルマスク着脱時のポイント

#### 1.上下、裏表を間違えない

- ・上下が違うとノーズピースが機能しない。
- ・ブリーツの隙間に空気中のウイルス飛沫や花粉がたまってしまいます。

#### 2.鼻と口、顎まできちんと覆う。

- ・ウイルスが侵入する。

#### 3.マスク表面に触れない。

- ・マスク表面の汚染が手に付着する。



### サージカルマスクの着用 〈ダメな例〉

#### 鼻が出ている

- 鼻からウイルスなどが侵入する



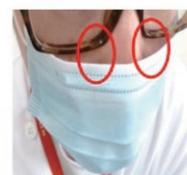
#### あごが出ている

- 隙間が出来る



#### 隙間があいている

- ノーズピースを鼻に合わせしていない
- 隙間からウイルスが侵入



診療科名		月	火	水	木	金
1階	総合診療科	松本 正俊	小出 純子	小出 純子	小出 純子	小出 純子
	内分泌・糖尿病内科 フットケア外来	午前 ⑧向井 理沙 ⑨小出 純子	⑧眞田 彩加 ⑨向井 理沙	⑧第1・3・5 向井 ⑨第2・4 眞田	⑧小出 純子 ⑨眞田 彩加	⑧小出 純子 ⑨向井 理沙
		午後	⑩担当医	⑩担当医		
	糖尿病療養外来	糖尿病療養外来は、毎週火曜日(祝日等を除く)の午前9時から12時まで【完全予約制】				
	腎臓内科	山村 恒平	入福 泰介	沖本 昂祐		入福 泰介
	血液内科	今川 潤	粟屋 忠祐		今川 潤	粟屋 忠祐
	脳神経内科	⑧北村 樹里 ⑨琴崎 哲平	⑧琴崎 哲平 ⑨末田 芳雅	⑧正廣 宣樹 ⑨琴崎 哲平	⑧末田 芳雅 ⑨北村 樹里	⑧北村 樹里 ⑨末田 芳雅 ⑩正廣 宣樹
	呼吸器内科	⑧奥本 穂 ⑨宮崎 こずえ ⑩西村 好史 ⑪川崎 広平	⑧重藤 えり子 ⑨三好 由夏	⑧西村 好史 ⑨宮崎 こずえ	⑧宮崎 こずえ ⑨重藤 えり子 ⑩川崎 広平 ⑪島田 俊宏	⑧川崎 広平 ⑨西村 好史 ⑩三好 由夏 ⑪中 康彦
	循環器内科	⑧東 昭史 ⑨城 日加里 ⑩対馬 浩	⑧山里 亮 ⑨小野 裕二郎	⑧小野 裕二郎 ⑨東 昭史	⑧城 日加里 ⑨山里 亮	⑧対馬 浩 ⑨小野 裕二郎 ⑩城 日加里
	小児科	上野 哲史 原田 香住 西田 優衣	下田 浩子 山西 平衣 西田 優衣	上野 哲史 岡田 泰之 原 香住	原 香住 田園 子平 山岡 尚平	下田 浩子 岡田 泰之 西田 優衣
消化器外科	高橋 忠照 堀田 龍一 高畑 明寛	豊田 和広 井上 雅史 河内 雅年 北崎 直	手術日		堀田 龍一 第1・3・5 河内 第1・3 高畑 第2・4 北崎	
乳腺・内分泌外科	佐々田 達成	貞本 誠治	貞本 誠治 佐々田 達成	手術日		貞本 誠治 佐々田 達成
ストーマ外来	ストーマ外来は、第2・4月曜日および第2金曜日(祝日等を除く)の午後【完全予約制】					
整形外科	今田 英明 森岡 亮樹 藤本 悠丈 荻 丈人	今田 英明 森岡 亮樹 村上 欣	藤岡 悠樹 第1・3・5 村上 第2・4 荻本	今田 英明 森岡 亮樹 村上 欣 荻 丈人	藤岡 悠樹 第1・3・5 荻本 第2・4 村上	
骨粗鬆症外来	骨粗鬆症外来は、第2、第4木曜日(祝日等を除く)の14時から17時まで【完全予約制】					
呼吸器外科	手術日		原田 洋明 赤山 幸一	柴田 幸一 諭 一	手術日	
皮膚科 (火・金曜日手術のため8:30~10:30まで)	間所 直樹 鈴木 雄大	間所 直樹 鈴木 雄大	間所 直樹 鈴木 雄大	末廣 昌敬 第1・3・5鈴木/第2・4間所	間所 直樹 鈴木 雄大 手術日	
眼科(休診)						
精神科	⑧野村 拓司 紹介予約のみ	⑨野村 拓司				
緩和ケア外来	野村 拓司					
2階	消化器内科	濱田 博重 井河村 敦太 河村 良太	南 智之 苗代 典昭 平野 大樹	濱田 博重 河村 良太	南 智之 苗代 典昭 井川 敦太	苗代 典昭 平野 大樹
	脳神経外科	勇木 清隆 貞友 隆樹 谷口 洋樹 森田 悟	手術日		谷口 洋樹 池田 昂輝	品川 勝弘 池田 昂輝
	心臓血管外科	森田 悟	手術日		前田 和樹	前田 和樹
	耳鼻咽喉科	午前 宮原 伸之 藤田 陸登	手術日		藤田 陸登 松元 聡一郎	宮原 伸之 松元 聡一郎
		午後 ⑩担当医(予約のみ) 手術日	宮原 伸之(予約のみ) 松元 聡一郎(予約のみ)		⑩担当医 手術日	
	歯科(入院患者のみ)	應原 一久	松月 真司	加治屋 幹人	曾根 久勝	濱本 結太
	泌尿器科	望月 英樹 西田 健介	望月 英樹 鍵山 義斗	西田 健介 鍵山 義斗	望月 英樹 西田 健介	手術日
産婦人科 (予約制)	手術日		手術日		田中 教文 浦八幡 彩季 藤 優季	

【受付時間】8時30分～11時30分 診察時間：8時30分～17時15分

○救急患者さんは随時診療いたします。  
齒科(入院応需)は随時的に診察曜日が変更となることがあります。

【予約受付】再診患者さんにつきましては、受診時に次回の診察予約ができます。  
また、定期的に受診されている場合には、電話での予約も可能です。  
電話(082)423-1489(平日8:30～15:00)

【産婦人科】産婦人科外来は原則的に初診も含めて予約制です(火曜日・木曜日・金曜日)。

【診療日】月曜日～金曜日(土曜日・日曜日・休日・年末年始は休診となります)

